

観光地域づくり法人形成・確立計画

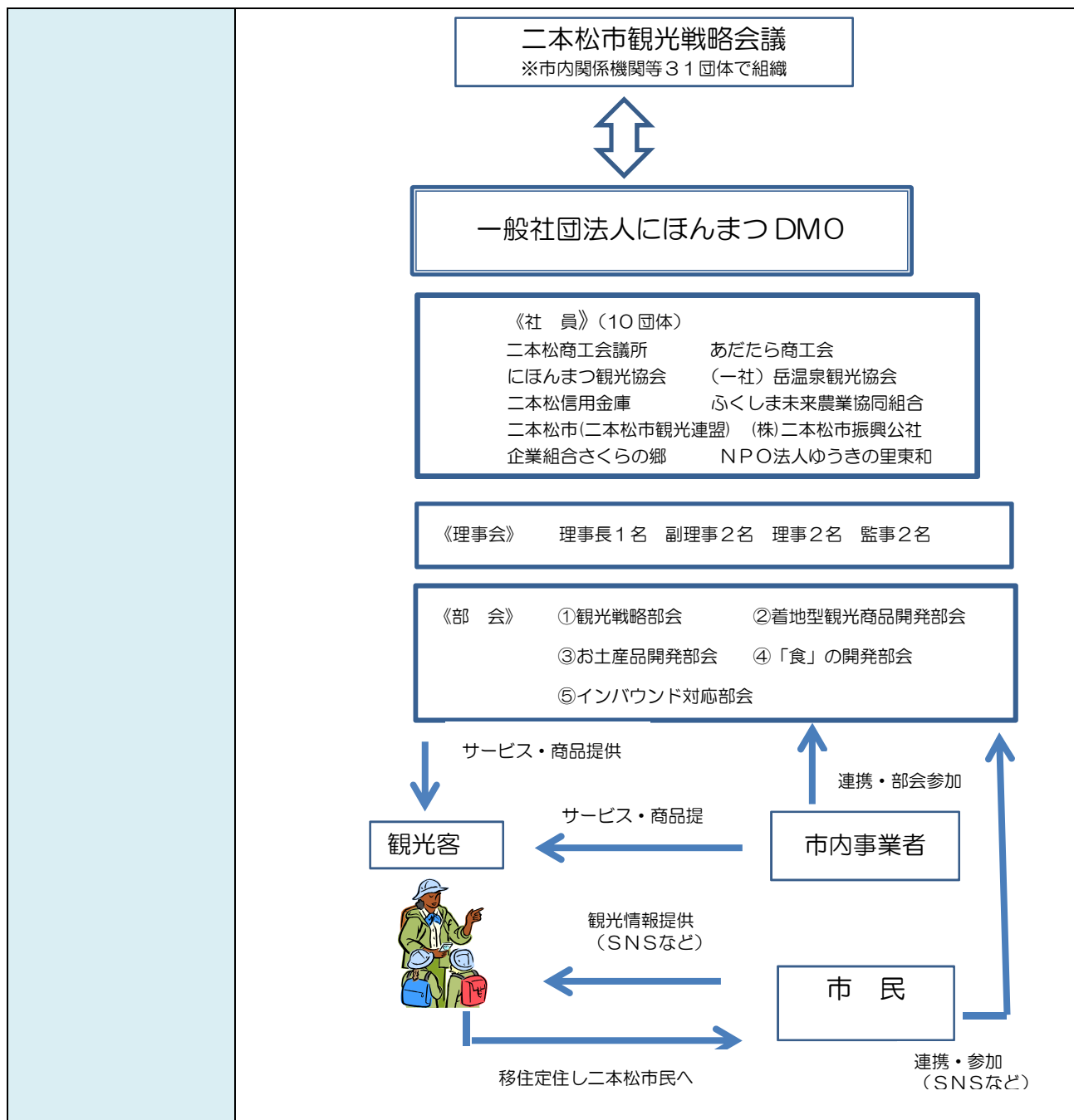
記入日：令和5年7月25日

1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを ○で囲むこと	広域連携DMO・地域連携DMO・ <u>地域DMO</u>	
観光地域づくり法人の名称	(一社) にほんまつDMO	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 福島県二本松市	
所在地	福島県二本松市	
設立時期	平成30年10月25日	
事業年度	4月1日から翌年3月31日までの1年間	
職員数	6人【常勤4人(正職員1人・出向等0人)、非常勤2人】	
代表者(トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者) ※必ず記入すること	(氏名) 石川 憲幸 (出身組織名) 二本松信用金庫	法人設立当初から理事を務め、地元の金融機関のトップとして、地域の商工業・観光業の振興に意を用いており、令和3年10月から代表理事の就任、今後、地域経済のけん引役として、さらなる活躍が期待される。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者(CMO：チーフ・マーケティング・オフィサー) ※必ず記入すること	(氏名) 佐藤俊明「専従」 (出身組織名) 二本松市役所	令和4年4月より事務局長に就任。二本松市役所に約36年間勤務、農業、商工、観光、政策企画、広報・広聴部門などの経験を有する。
財務責任者(CFO：チーフ・フィナンシャル・オフィサー) ※必ず記入すること	(氏名) 佐藤俊明「専従」 (出身組織名) 二本松市役所	二本松市役所に36年間勤務、農業、商工、観光、政策企画、広報・広聴部門などの経験を有し、持続可能な運営のため、運営収支や財源確保に関する検討を行う。
情報発信、プロモーションの責任者(専門人材)	(氏名) 安田 茂 (出身組織名) ㈱福島民友新聞社	令和4年3月より勤務。㈱福島民友新聞社に33年間勤務。取材・編集を通じ、県内地域動向、各種イベントに精通している。
各部門(例：旅行商品の造成・販売)	(氏名) 斎藤美祐紀	2015年度設立の市のキャンペーンクルー「おもてなし二本松少年隊」の創立時からメンバーとして

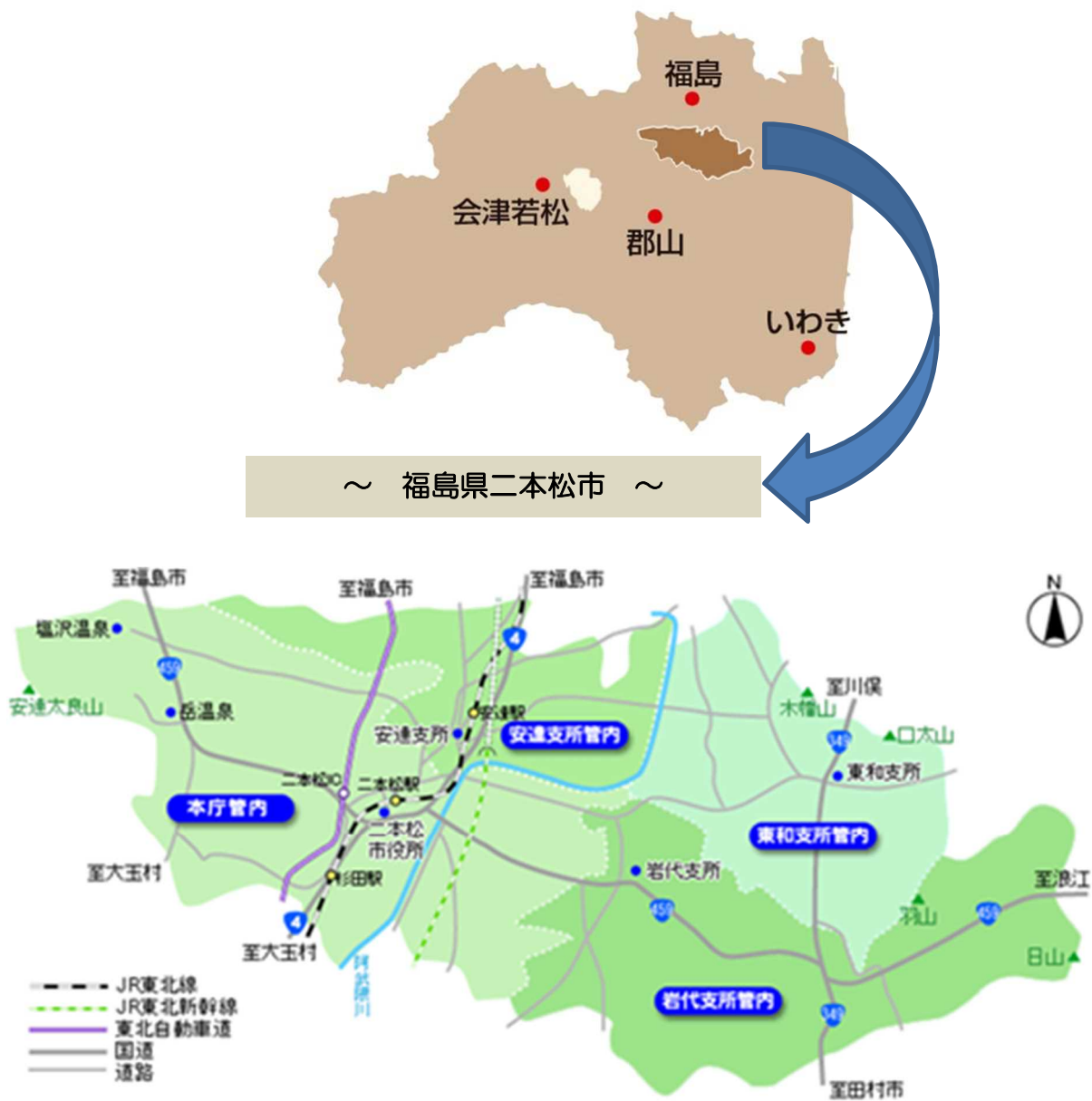
の責任者（専門人材）		活動。DMO入社時より、観光案内所業務とキャンペーンクルー運營業務の責任者。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	二本松市観光課（観光施策・マーケティング・プロモーション） 二本松市農政課（農産品振興） 二本松市商工課（物産品振興） 二本松市企画財政課（地域公共交通） 二本松市教育委員会文化課（文化施設）	
連携する事業者名及び役割	二本松市観光戦略会議（観光施策） 二本松市観光連盟（着地型観光） 各地域観光協会（5団体）（着地型観光） 二本松商工会議所（事業者支援、まちなか活性化、着地型観光） あだたら商工会（事業者支援、まちなか活性化、着地型観光） 一般社団法人岳温泉観光協会（受入環境整備、着地型観光） 岳温泉旅館協同組合（受入環境整備） 株式会社二本松市振興公社（受入環境整備、物産品振興、着地型観光） 企業組合さくらの郷（受入環境整備、物産品振興、着地型観光） NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会（受入環境整備、物産品振興、着地型観光） 東日本旅客鉄道株式会社二本松駅（一次交通） 福島交通株式会社二本松営業所（二次交通） 二本松地区ハイヤータクシー経営者協議会（二次交通） ふくしま未来農業協同組合 安達地区本部（農産品振興） 独立行政法人二本松青年海外協力隊訓練所（受入環境整備） 公益社団法人二本松青年会議所（事業者支援、着地型観光） 二本松物産協会（物産品振興） 二本松三業組合（事業者支援、まちなか活性化） 福島県酒造組合二本松支部（物産品振興、着地型観光） 二本松市婦人団体連合会（受入環境整備） 二本松観光ボランティアガイド協会（ボランティアガイド） オープンガーデン二本松（着地型観光） 富士急安達太良観光株式会社（着地型観光） 株式会社東北サファリパーク（着地型観光） 二本松信用金庫（現況分析） 一般財団法人二本松菊栄会（着地型観光）	
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	【該当する登録要件】①② （概要） ①DMO構成10団体のうち、行政・観光協会・商工会議所・商工会・温泉関係団体・信用金庫・農業団体の7団体が役員として理事会を構成し、意思決定に参画している。 ②DMO構成10団体を含む、市内関係機関31団体で組織する「二本松市観光戦略会議」において、市全体の観光戦略検討および構成団体の調整等を行う。	
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	①DMO社員構成団体の職員に地域住民を加えた「にほんまつDMO戦略部会」を10~15名程度で構成し、ワークショップを開催する。「戦略部会」の活動を通して、住民参加の場を確保するとともに、住民への情報提供に務める。 ②ここでは、事業内容について検討を行い、実施体制を整え推進する。 ③DMO関係団体や地域住民への啓発を目的とした研修会を開催。	
法人のこれまでの活動実績	【活動の概要】	

	事業	実施概要
	情報発信・プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> ・R2年 東北DCに向けた観光地づくり推進事業 「あだたらアクティビティ」+「岳温泉ADATARAリトリート宿泊プラン」の磨き上げ ワークショップ「通年できるアクティビティコンテンツをつくろう！」 あうたびオンラインツアー ・R3年～R4二本松デジタルスタンプラリー ・R4年～R6二本松PR事業（総合ポータルサイト開設） ・DMOホームページ、FB、インスタグラム等を活用した情報発信
	受入環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・R2年 誘客コンテンツ造成事業 菊人形会場のマムルームを活用したナイトタイムコンテンツ造成 和菓子の日記念イベント 二本松の日本酒カクテルを楽しむBarホッピング りんご狩りと夢ワインでのんびり山里タイム 夢ワインでりんごケーキ作り体験&ワインラベル作り体験 山里の農家のお母さんに教えてもらう簡単クッキング ・R4年二本松市内宿泊施設限定宿泊券事業 ・電動アシスト自転車レンタル事業
	観光資源の磨き上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・R2年 観光資源ブラッシュアップ事業 岳温泉源泉×四蔵元純米酒配合フェイスパック「肌とうじ」開発・販売 四蔵元の酒粕を使用した洋菓子「酒粕入りサブレ」を企画・製作・販売 岳温泉十二支手摺版画巡りリニューアル ・R4年観光地域支援事業による「殿様御膳」作成 地域連携促進事業による安達太良山と市内体験事業の連携
<p>実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。</p>	<p>【定量的な評価】 各種事業について、R2年後半からR4年6月までコロナ禍により継続的な事業展開ができない状況であったが、そのような環境下であっても今後につながるモデル事業への取り組み、地域各団体と協力体制の再構築を図るための会議等ができたと考えている。</p>	<p>【実施体制の概要】 一般社団法人にほんまつDMOの社員は、行政・観光協会・商工会議所・商工会・温泉関係団体・信用金庫・農業団体・市内3か所にある道の駅を運営する各団体、計10団体で構成する。内、行政を含む7団体が役員を構成し、意思決定に参画することで、官民が密接に連携した運営を実施する。 DMO構成10団体を含む、市内関係機関31団体で組織する「二本松市観光戦略会議」において、市全体の観光戦略検討および構成団体の調整等を行う。二本松市観光戦略会議はDMOのシンクタンクの役割を果たす。事業を実行する機関として「戦略部会」を設置。事業推進の状況を見ながら各部会を設置する予定。各部会構成員は5～6名程度とし、市内関係団体の構成員の中から編成する。</p> <p>【実施体制図】</p>



2. 観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

平成17年12月1日に旧二本松市・安達町・岩代町・東和町の1市3町村が合併し新「二本松市」が誕生した。新二本松市は、もともと幕政時代の旧二本松藩の中心区域を一体的に形成しており、歴史、文化、経済、自然的な結びつきが強い。そのため、本DMOは、新市の観光振興を図るうえで、戦略的な役割を担う中核的な組織として期待されており、地域DMOとして、二本松市をエリアとした事業を展開していくことが適切。

【観光客の実態等】

※設定区域における観光客入込客数、延べ宿泊者数、消費額等を踏まえて記入すること。

新二本松市誕生時に観光入込客数は、200万人程度であったが、その後、観光立市を掲げて観光振興の諸施策を官民一体となって展開し、平成22年には281万人を数えるに至った。しかし、平成23年3月11日の東日本大震災と原子力発電所事故発生により175万人程度まで落ち込んだ。その後の震災復興施策等を受けて、年々回復基調が続き、平成27年には、概ね震災前の数字を回復し、その後も順調に入込数を伸ばし、平成29年には378万人に達した。しかし、拡大化するコロナウィルス禍の影響により令和3年は250万人と前年より、更に11万人落ち込んでいる。

宿泊者数、消費額についても観光入込数連動して増減し、令和3年では述べ宿泊者数が8万2千人、旅行消費額は1,903百万円となっている。

観光入込客数（※二本松市による入込調査）

年	観光客入込数（人）	特記事項
平成23年	1,754,493	東日本大震災、原子力発電所事故後
平成24年	2,160,861	
平成25年	2,367,036	調査地点追加2地点
平成26年	2,436,375	
平成27年	2,766,886	ふくしまDC開催
平成28年	3,863,856	調査地点追加1地点 調査方法変更地点2地点
平成29年	3,783,447	
平成30年	3,755,785	
令和元年	3,696,822	
令和2年	2,612,123	開催中止に伴う5地点調査未実施
令和3年	2,503,282	開催中止に伴う5地点調査未実施
令和4年	2,998,460	

来訪者の居住地（※2022年2月 二本松市観光動態調査より）

- 1 宮城県（6.9%）
- 2 東京都（2.6%）
- 3 埼玉県（2.2%）
- 4 山形県（1.8%）
- 5 茨城県（1.7%）

宿泊者の都道府県別割合（※2021年RESASより（観光MAP from-to分析）

- 1 東京都（11.6%）
- 2 埼玉県（8.4%）
- 3 千葉県（8.3%）
- 4 宮城県（7.5%）
- 5 神奈川県（6.5%）

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

日本百名山の一つである安達太良山とこれを源とする水と温泉。この水を原料に生み出される地酒、陶器、和紙。これらを一つの物語（食・体験）として、本市を訪れる観光客へ提供する。

- ① 山を活用した登山、トレッキング・トレイルランニング・スノースポーツ、岳温泉源泉の湯上等のアクティビティ体験。
- ② 山（宿）と街（市街地）を繋ぐ水に係る体験（焼き物体験、酒蔵見学、和紙・和菓子造り体験への誘導）。

ジャンル	観光資源
自然	安達太良山、あだたら野営場、智恵子の杜公園、夏無沼キャンプ場、県立自然公園日山、日山キャンプ場、合戦場のしだれ桜、杉沢の大杉、羽山、羽山の里クマガイソウ、中島の地蔵桜、さつき山公園
文化・歴史	霞ヶ城公園、智恵子の生家・記念館、和紙伝承館、隠津島神社、小浜城址、大山忠作美術館、にほんまつ城報館
産業施設	安達ヶ原ふるさと村
スポーツ・レクリエーション	あだたら高原スキー場、二本松塩沢スキー場、阿武隈漕艇場、ウッディハウス東和、日山パークゴルフ場、スカイピアあだたらアクティブパーク、東北サファリパーク、エビスサーキット、二本松市総合射撃場
温泉	岳温泉、スカイピアあだたら、塩沢温泉、名目津温泉
買物	道の駅安達上り線・下り線、道の駅さくらの郷、道の駅ふくしま東和、JA直売所こらんじょ市、
伝統	二本松提灯祭り、針道あばれ山車、木幡幡祭り、万人子守地蔵尊例大祭、小浜の紋付祭り
イベント	二本松の菊人形、二本松少年隊顕彰祭、智恵子の里安達夏祭り、智恵子顕彰イベント、東和ロードレース、東和ふるさと祭り、全日本阿武隈ウォーター大会（カヌー）、岩代産業文化祭、岳温泉観光仮装盆踊り、霞ヶ城公園桜祭り

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

都市名	区域	施設数	収容人数
二本松市	二本松駅周辺	ビジネスホテル2、旅館2 小計 4	200
	岳温泉	ホテル・旅館9 ビジネスホテル・ペンション6 小計15	1,614
	塩沢温泉	旅館1、ペンション1 小計 2	53
	岩代・東和	農家民宿・民泊25 小計25	160
	計	47	2,027

【利便性：区域までの交通、域内交通】

・JR

東京駅 ⇄ 二本松駅 約2時間

（東北新幹線：東京駅→郡山駅、東北本線：郡山駅→二本松駅）

仙台駅 ⇄ 二本松駅 約50分

（東北新幹線：仙台駅→福島駅、東北本線：福島駅→二本松駅）

・高速バス

仙台駅前 ⇄ 二本松BS 約1時間20分

- 新宿駅新南口 ⇄ 二本松BS 約4時間30分
 成田空港 ⇄ 二本松BS 約5時間
- ・ 高速道路
 - 仙台宮城IC ⇄ 二本松IC 約1時間
 - 浦和IC ⇄ 二本松IC 約3時間
 - 新潟中央IC ⇄ 二本松IC 約2時間
 - ・ 空港 福島空港（福島空港から二本松 タクシー1時間、バス・JR乗り継ぎ2時間）

区域内交通

JR二本松駅を主要停車駅とした路線バスが、市街地、周辺地域へと連絡している。
 （福島交道路線バス、市コミュニティバス、タクシー）

【外国人観光客への対応】

- ・ 多言語パンフレット作成
英語・台湾・中国・タイ・ベトナム語のパンフレットを作成している。
- ・ 日本酒ナビゲーター認定店に配布チラシで英語対応をしている。
- ・ 日本酒ナビゲーター認定店約40店舗（酒蔵や宿泊施設含む）紹介ガイドブックを英語版で作成予定。
- ・ Wi-Fi環境
無料公衆無線LAN「二本松シティWi-Fi」を、市役所内や一部観光地で提供している。
- ・ 観光案内所
JR二本松駅構内にある二本松市観光案内所で、英語対応可能な案内所として、「カテゴリーI」の認定済み。
- ・ 観光スポット
霞ヶ城公園では、QRコード読み取り式で説明立て看板多言語化対応にしている。
- ・ キャッシュレス決済事業推進
岳温泉エリアを中心に市内各店にて機器導入。二本松の菊人形会場でも3台導入。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	県観光客入込状況調査、アンケート調査を自主事業として実施。
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため。	市観光入込客統計調査
来訪者満足度	来訪者の満足（不満足）に繋がっている要因を分析し、戦略立案に繋げるため。	県観光地実態WEB調査、アンケート調査を自主事業として実施。
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	二本松市観光連盟HP にほんまつDMOHP・FB
二本松市に関する認知度・興味度調査	誘客の前段階として認知度と興味度を把握することが重要である。	2023 二本松市観光動態調査、アンケート実施
SNSによる口コミ投稿調査	ユーザーによる投稿より、人気度や注目度を把握する為。	二本松の有力コンテンツを絞り込みで検索。一年間の投稿を調査

4. 戦略

(1) 地域における観光を取り巻く背景

※地域経済、社会等の状況を踏まえた観光地域づくりの背景

二本松市では、市町村合併後も人口減少が続いており、市域内でもJR沿線への人口移入が進み、山間部の農村地帯では、過疎化の進行が著しい。

若年層の流出が続いており、工場団地の造成、企業誘致の推進などによる地元定着化を模索しているが、歯止めがかからず、高齢化とも相まって、危機感が増している。

そうした中であって、福島県内では上位の観光地域としての実績を基に、観光地域づくり法人（DMO）を中心として、既存の観光資源を活用と新たな視点からの観光戦略を立ち上げ、魅力ある観光地域づくりを図り、新たな雇用の創出や担い手不足の解消、交流人口の増加につなげることとしている。

(2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<p>強み (Strengths)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自地域で積極的に活用できる強みは何か？ ・差別化となる多様な観光資源・温泉地・山・文化施設・レジャー施設・4つの道の駅等、観光資源が豊富にある。 (安達太良山、岳温泉、二本松城址、提灯祭り・菊人形などの催事イベント、特色ある道の駅などの観光資源・施設があり、相応の評価を得ており、継続的な集客が見込まれている。) 	<p>弱み (Weaknesses)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自地域で改善を必要とする弱みは何か？ ・多様な観光資源の未統合、団体同士の連動性不足、情報・販促商品造成の共有化・統合化の未練熟。 ・豊富な資源の商品化力・プロデュース力、及び観光・物産双方におけるブランド力不足。 ・住民理解・参加・主体性不足、民間事業者・一般市民の主体参加が少ない (観光趣向の多様化による宿泊施設やイベント集客の停滞、情報発信力の未発達、戦略の未練熟など)
外部環境	<p>機会 (Opportunity)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自地域にとって追い風となる要素は何か？ ・インバウンドブームの再活性化 台湾との相互交流ツアー成功体験 ゴールドルート以外の新たな目的地を求める動き ・ゆうきの里東和事業 東和地域の持つ全ての農業関連コンテンツを一つにテーマパークにまとめ、関係事業者が有機的な結合をもつての成果創出 (SDGsの推進などにより、アドベンチャー旅行、ワーケーション、田舎暮らし、マイクロツーリズムなどへの新たな需要が現出しており、その受け皿になりうる素材が相当数存在する。) 	<p>脅威 (Threat)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自地域にとって逆風となる要素は何か？ ・危機意識の差異が大きい 個々の事業者及び団体が個々の戦略を策定し、実行しうる相応の体制があるが、それらの戦略の成否における差異が大きく、各々の危機意識にも大きな差異がある。 ・着地型観光開発競争の激化 他の地域と競争する中で、商品数が圧倒的に少なく、造成が急務。同時に商品力と販売力を高める必要。 ・原子力災害による風評被害 (既存観光地への魅力の喪失、観光趣向・価値観の変化、人口減少、過疎化による需要の減少による埋没化。)

※上記に加え、PEST分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

(3) ターゲット

○第1ターゲット層

国内（特に近隣地域・関東全般、南東北の中老年層）

○選定の理由

- ・令和3年度に実施したDMO独自の二本松市観光動態調査（㈱プログウオッチャー）による都道府県別来訪者数、県内以外では、宮城県に続いて、関東方面の都県からの来訪者が10位以内を占めており、電車で約2時間圏内からの来訪者が圧倒的である。
- ・同調査による性年代別構成から、男女とも50代を中心とした世代が来訪者の1位を占め、次に40代が占めている。
- ・過去に当市を訪問した経験のある方の割合が20%を超える地域（H28実施アンケートより）であることから、今後も継続した誘客を行う必要があるため。
- ・インターネット調査にて、二本松市の観光コンテンツを知らなかったが、「知ることにより行ってみたいと思った」との回答を多く得られた。
- ・温泉好きの興味をそそる。岳温泉の泉質も評判が高く、また、湯守という昔ながらの文化が残っているのも特徴。
- ・登山や体験型コンテンツブームの近年、地域資源であるか休火山吾妻・安達太良山は登山初心者にも最適な山とされている。

○取組方針

- ・既存の観光コンテンツについては、県内と県外の観光経験者の間でおすすめスポットに乖離がある（H31インターネット調査より）ため、県内の観光経験者が認知する観光コンテンツではなく、県外の旅行者が興味を抱いているコンテンツを磨き上げ、PRしていく。
- ・既存の観光コンテンツをターゲット層にPRすることで認知度を深めて新規顧客の拡大をする。
- ・口コミ投稿を分析し満足度を上げて再訪率の向上を目指す。
- ・既存の景勝型観光のブラッシュアップをしながら、体験型観光のニーズに対応する着地型観光商品の造成・販売や魅力的なお土産品、ここにしかない食の新商品の開発に取り組む。

○第2ターゲット層

インバウンド（台湾、タイ、ベトナム、オーストラリア）

○選定の理由・取組方針

台湾

- ・平成28年度に市民200名以上を導入した台湾チャーターツアーを実施。全160席が3日間で完売し、200名以上のキャンセル待ちという、震災後の福島県において最大規模のインバウンドツアーとなった。その後も、当市のインバウンド入込数における台湾の割合は依然として高いため、メインターゲットに据えた取組活動を行ってきた。今後も目的地としての訪問意欲を根付かせるとともに、広域的な連携によるイメージの強化に繋がるよう、効果的なプロモーション活動を継続する。

タイ

- ・親日国であり、成長著しい東南アジア市場の中でも訪日客数の伸びが大きい。市内に事業所を持つ「富士急グループ」がバンコクに事務所を開設しており、協力について申し出を頂いていることから、現地プロモーションをかけやすい状況にある。当市が持つ、同社周辺の観光資源と併せてPRして頂けるよう働きかける。
- ・2019年10月、タイの国立動物園「タイ国立カオキオ動物園」と二本松市が観光PR連携協定を結ぶ。今後、相互にPRコーナーを設ける予定。タイに対して直接、二本松の魅力PRする機会を得た。

ベトナム

- ・タイの隣国であり、当市の持つ自然の観光資源が受け入れやすい風土がある。タイ・オーストラリアも同様に福島県が主要なターゲットとして位置付けているため、広域的なプロモーションがかけ

やすい。福島県やランドオペレーターとの連携を密にし、旅行団体に「菊人形」を組み込んで頂く等の働きかけを行う。

オーストラリア

・年間1,000名ほどの外国人客を受け入れている「エビスサーキット」における中心客層。既に、20～30代の青年層を中心としたリピーターとしての顧客を獲得している。このため、現に訪問している同国人をターゲットにプロモーションを行い、口コミによる顧客獲得を目指す。また、スカイピアあだたら体育館で体験できるクライミングやスケートボード等（H30.4オープン）、他のエクストリームスポーツと併せた商品化を行うことで、重層的なPRが期待できる。

○ターゲット層

アドベンチャーツアー（AT）に関心を抱く米欧の富裕層

○選定の理由

米欧を中心にATへの関心が富裕層を中心に高まりを見せている。SDGsとの共通した理念の下、本市の有する安達太良山を中心とした自然財産、岳温泉、城下町、和紙の里などの文化資源を活用した新たな着地型観光の目玉として有望性がある。

○取組方針

南東北エリア、さらに北関東から東北全域をと対象とした広域的な連携体制を構築し、中長期滞在型の観光商品の開発を目指し、ルート、ガイド、コンダクターの育成とコンテンツの造成を推進する。（東北地域内の関連会社・団体等との連携商品）

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	<p>「住みたくなる、二本松」 ～山・歴史・文化・温泉・酒・エクストリームスポーツ 二本松ライフスタイルの創造～</p>
②コンセプトの考え方	<p>当市には自然・歴史・文化・温泉・酒・エクストリームスポーツ等の豊富な観光資源があり、特に、スカイピアアクティブパーク（H30.4オープン）は、2021年開催の東京オリンピックの競技種目となったクライミング・スケートボードに加え、次回候補競技の一つであるスラックラインの3種のエクストリームスポーツを屋内で体験できる、国内唯一の施設となる。これらの観光素材を活かした着地観光商品の開発を行うことで、他の地域との差別化を図る。</p> <p>二本松ライフスタイルの構築に向け、具体的施策を、収益事業を通じて実現させるため、以下の3点をテーマとして掲げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 二本松市民・観光客ともに楽しめる二本松市 市内の優れた観光資源を観光客のみに限らず、広く市民も活用できる観光サービスを構築し、受け入れ体制を整備する。 2. 二本松にしかできない着地型観光 二本松を誰より知る市民が主体的に着地観光素材の開発・運営に関与できる体制を整備し、多くの市民が創り・楽しむ「おもてなし」を、二本松スタイルとしてブランディングする。

	<p>3. 二本松スタイルを自走・持続させるための収益事業化</p> <p>二本松スタイルの確立・ブランディングにかかる長い期間を持続させるために、公費やボランティアに依存せず、全ての施設の運営で収益化を目指す。</p>
--	--

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	<p>DMO構成10団体を含む、市内関係機関31団体で組織する「二本松市観光戦略会議」を年2回程度開催し、市全体の観光戦略検討および構成団体の調整等を行う。</p> <p>また、関係団体で構成する部会等を随時開催し、多様な関係者との情報の共有を図る。</p> <p>DMOを中心として、地域の関連事業者を集めてコミュニケーションの場を年に数回程度設けるとともに、関連事業者に対してのコンサルティング等を実施</p>
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	<p>観光客を対象としたアンケートを各観光施設において実施し、満足度や改善点等を把握し、DMOで集約した内容を関係団体や事業者に提供することで、更なるサービス向上を図る。</p>
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	<p>当社を観光活性化の司令塔とし一元的な発信戦略を行う。市内の観光事業者から発信・集客事業を受託し、二本松市全体として最大限の効果のあるプロモーションを行っていく。</p>

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

6. KPI（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後3年間における明確な数値目標を記入すること。

※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去3年間の実績も記入すること。

（1）必須KPI

指標項目		2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度
●旅行消費額 (円)	目標	31,906 ()	33,000 ()	34,000 ()	35,000 ()	36,000 ()	37,000 ()
	実績	22,509 ()	23,215 ()	24,185 (39,878)			
●延べ宿泊者数 (人)	目標	214,785 ()	215,785 ()	217,000 ()	221,103 ()	225,525 ()	230,035 ()
	実績	124,154 ()	82,721 (12)	140,532 (525)			
●来訪者満足度 (%)	目標	83 ()	83 ()	84 ()	85 ()	86 ()	86 ()
	実績	86 ()	80 ()	61 ()			
●リピーター率 (%)	目標	35 ()	36 ()	37 ()	38 ()	39 ()	40 ()
	実績	32 ()	42 ()	38 ()			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

連携する地方公共団体の担当部署である二本松市役所観光課と共に検討を行い、にほんまつDMOの基本方針や目標を実現するための施策の方向性を定めた「一般社団法人にほんまつDMO事業計画」を2018年度に策定。計画の対象期間を2019年度から2024年度の5か年をとし、それぞれの項目において地域の『稼ぐ力』を最大限に引き出すための指標を策定した。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

計画策定時の二本松市を含む県北地域旅行消費額 30,906 円を 2023 年度までに『福島県旅行消費調査（平成29年年間平均値）』における一人一回当たりの単価 34,000 円に引き上げる計画とする。

●延べ宿泊者数

新しいターゲット層の入込を計り若者向けプラン造成。満足度を向上させ、年間 2,000~5,000 人の宿泊者数増加を目指し、2023 年度末に 2017 年度より、1 万人以上の増加を目指す。

●来訪者満足度

平成28年度じゃらん宿泊調査において、福島県の満足度は81%であることから、二本松エリアとしては地域全体のサービスレベルの更なる向上により一定の品質を保ちながら平成28年度の実績を維持・向上を図ることとして、5か年で3パーセントの満足度向上を目標とする。

●リピーター率

サービスレベルの更なる向上により、2020 年度は前年 3% 増を目指し、その後、一定の品質を保ちながら 2021 年度以降は、毎年 1% の増加を目標とする。

(2) その他の目標

指標項目		2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度
●メディア掲載回数 (件)	目標	20 ()	26 ()	30 ()	35 ()	35 ()	35 ()
	実績	14 ()	20 ()	13 ()			
●イベント企画運営件数 (回)	目標	4 ()	5 ()	5 ()	5 ()	5 ()	5 ()
	実績	2 ()	2 ()	8 ()			
●開発商品販売件数 (件)	目標	1,700 ()	2,300 ()	3,000 ()	5,000 ()	5,000 ()	5,000 ()
	実績	5,982 ()	3,531 ()	5,694 ()			
●HPアクセスビュー数 (件)	目標	60,000 ()	70,000 ()	80,000 ()	90,000 ()	100,000 ()	110,000 ()
	実績	54,758 ()	68,638 ()	89,561 ()			
	目標	()	()	()	()	()	()
	実績	()	()	()			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

【設定にあたっての考え方】

連携する地方公共団体の担当部署である二本松市役所 観光課と共に検討を重ね、にほんまつDMOの基本方針や目標を実現するための施策の方向性を定めた「一般社団法人にほんまつDMO事業計画」を2018年度に策定。計画の対象期間を2019年度から2024年度の5か年をとし業務プロセスの視点から戦略目標として『メディア掲載数』『イベント企画運営数』『商品開発数』『商品販売数』を選定。各項目において地域の『稼ぐ力』を最大限に引き出すための指標として策定。

●メディア掲載回数

県内新聞社2社、テレビ局4局を中心に、るるぶ、じゃらん等を活用し、二本松観光の魅力、産品宣伝を行うことで、市内への誘客と物産販売額の向上につなげる。このため、話題提供となるイベント開催数と新商品開発数・宣伝数を指標とする。

イベント開催数+新商品開発・宣伝数で設定

●イベント企画運営数

イベント企画運営に豊富な知見を持つ人材と組み、ターゲット選定を行い、テーマに適したイベントを開催する。イベントによる組織負担が出ないよう、前年実施したイベント+新イベント1で企画運営を行う。2019年度～2020年度は芸術祭「重陽の日」を開催。2019年度～2023年度は、6月14日「お菓子の日」開催（参画店舗数・売上個数をウォッチ）。2020年度～2022年度はデジタルスタンプラリーを開催。2022年度ランタンフェスを開催。

●商品開発件販売数

商品開発経験豊富な地元人材と組み、マーケティングを行いながらの開発を予定。毎年テーマを決め、一つの商品に向き合い磨きこんでいく。商品開発に関しては、数ではなく質に注力するが、販売数については、営業強化による取扱店の増加により、5か年で2倍以上の販売数増加を指標とする。2019年度は、「二本松の提灯祭り玉羊羹セット」@1,280円、「提灯祭り字缶バッチ」@100円、「提灯絵付け体験セット」@1,000円、「二本松の提灯祭り・土産用提灯」@1,000円、2020年度「二本松の四季・オリジナルポストカード」@100円の商品を企画販売。4酒蔵の酒粕を使用した生チョコレート企画販売@1980円。4酒蔵の酒粕と岳温泉の温泉をしようしたフェイスパック「肌とおじ」を企画販売バラ@350円、4枚セット@1,280円。

●WEBサイトのアクセス状況

2019年から開設しているにほんまつDMOホームページ、フェイスブック、インスタグラムのアクセスビュー数について、毎年一定のアクセス数を確保しながら、5か年の全期間を通じ10万アクセスを達成する。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後3年間について、計画年度毎に（1）収入、（2）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去3年間の実績も記入すること。

（1）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2020（R2） 年度	85,818,344（円）	【市からの補助金】 33,672,150（円） 【収益事業収入】 52,156,194（円）
2021（R3） 年度	22,964,848（円）	【市からの補助金】 20,738,000（円） 【収益事業収入】 2,226,848（円）
2022（R4） 年度	32,216,160（円）	【市からの補助金】 28,325,718（円） 【収益事業収入】 3,990,442（円）
2023（R5） 年度	34,349,000（円）	【市からの補助金】 29,349,000（円） 【収益事業収入】 5,000,000（円）
2024（R6） 年度	37,000,000（円）	【市からの補助金】 30,349,000（円） 【収益事業収入】 6,651,000（円）
2025（R7） 年度	37,000,000（円）	【市からの補助金】 30,349,000（円） 【収益事業収入】 6,651,000（円）

（2）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2020（R2） 年度	85,818,344（円）	【一般管理費】 17,109,276（円） 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略）】 9,990,000（円） 【事業費】 59,719,068（円）
2021（R3） 年度	21,345,705（円）	【一般管理費】 14,518,055（円） 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】 1,500,000（円） 【事業費】 5,327,650（円）
2022（R4） 年度	32,188,000（円）	【一般管理費】 13,188,829（円） 【マーケティング（市場調査、ブランド戦略等）】

		4,059,950 (円)
		【事業費】 14,969,221 (円)
2023 (R5) 年度	(円) 34,349,000	【一般管理費】 16,481,000 (円) 【マーケティング (市場調査、ブランド戦略等)】 3,000,000 (円) 【事業費】 14,868,000 (円)
2024 (R6) 年度	(円) 37,000,000	【一般管理費】 17,000,000 (円) 【マーケティング (市場調査、ブランド戦略等)】 4,000,000 (円) 【事業費】 16,000,000 (円)
2025 (R7) 年度	(円) 37,000,000	【一般管理費】 17,000,000 (円) 【マーケティング (市場調査、ブランド戦略等)】 4,000,000 (円) 【事業費】 16,000,000 (円)

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

- ・戦略的に地域経済全体の活性化につながる事業を展開することにより、市からの補助金及び負担金等の確保を図る。
- ・コンテンツの開発による受入マージンや施設管理委託及び業務委託、商品販売による収益確保による自主財源づくりを推進する。
- ・社員から会費の徴収 (現在、年会費無し) と社員の拡大を図る。

8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

一般社団法人にほんまつDMOが地域DMOとして機能することにより、①観光資源の掘り起こしと創出、②観光戦略の立案と実践、③観光まちづくりの総合的コーディネートの機能を担う、本市観光まちづくり戦略の中核機関となります。観光まちづくり戦略の中核機関となることで、本市の観光振興が図られ、地域経済の活性化に繋がるものと考えられることから、福島県二本松市は、一般社団法人にほんまつDMOを本市における地域DMOとして存続したいので、一般社団法人にほんまつDMOとともに申請します。

9. マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携DMO (県単位以外) や地域DMOと重複する場合の役割分担について (※重複しない場合は記載不要)

重複していない。

10. 記入担当者連絡先

担当者氏名	佐藤俊明
担当部署名 (役職)	事務局長
郵便番号	964-0904
所在地	福島県二本松市郭内三丁目303番地5
電話番号 (直通)	0243-24-7702
FAX番号	0243-22-6636
E-mail	nihonmatsu.dmo@gmail.com

1 1. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	福島県二本松市
担当者氏名	籾山貴大
担当部署名（役職）	二本松市産業部観光課観光立市係主査
郵便番号	9 6 4 - 8 6 0 1
所在地	福島県二本松市金色 4 0 3 番地 1
電話番号（直通）	0243-55-5095
F A X 番号	0243-22-8533
E - m a i l	kankorisshi@city.nihonmatsu.lg.jp

都道府県・市町村名	
担当者氏名	
担当部署名（役職）	
郵便番号	
所在地	
電話番号（直通）	
F A X 番号	
E - m a i l	

記入日: 令和5年7月24日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】

福島県、二本松市

【設立時期】平成30年10月25日

【設立経緯】

区域に観光協会があるが、役割分担等をした上でDMO新設

【代表者】石川 憲幸

【マーケティング責任者(CMO)】佐藤俊明

【財務責任者(CFO)】佐藤俊明

【職員数】6人(常勤4人(正職員1人・出向等0人)、非常勤2人)

【主な収入】

収益事業4百万円、市委託事業6百万円、市補助22百万円(4年度決算)

【総支出】

事業費 15百万円、一般管理費 17百万円(4年度決算)

【連携する主な事業者】

二本松市観光連盟、各地域観光協会、二本松商工会議所、あだたら商工会、一般社団法人岳温泉観光協会、株式会社二本松市振興公社、企業組合さくらの郷、NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会、福島交通株式会社二本松営業所、ふくしま未来農業協同組合 安達地区本部、独立行政法人二本松青年海外協力隊訓練所、福島県酒造組合二本松支部、富士急安達太良観光株式会社、二本松信用金庫、一般財団法人二本松菊栄会等

KPI(実績・目標)

※()内は外国人に関するもの。

項目		2020 (R2)年	2021 (R3)年	2022 (R4)年	2023 (R5)年	2024 (R6)年	2025 (R7)年
旅行消費額 (円)	目標	31,906 ()	33,000 ()	34,000 ()	35,000 ()	36,000 ()	37,000 ()
	実績	22,509 ()	23,215 ()	24,185 (39,878)	—	—	—
延べ 宿泊者数 (人)	目標	214,785 ()	215,785 ()	217,000 ()	221,103 ()	225,525 ()	230,035 ()
	実績	124,154 ()	82,721 (12)	140,532 (525)	—	—	—
来訪者 満足度 (%)	目標	83 ()	83 ()	84 ()	85 ()	86 ()	86 ()
	実績	86 ()	80 ()	61 ()	—	—	—
リピーター率 (%)	目標	35 ()	36 ()	37 ()	38 ()	39 ()	40 ()
	実績	32 ()	42 ()	38 ()	—	—	—

戦略

【主なターゲット】

①ミレニアル世代②日本酒に関心がある③アドベンチャートラベルが好き

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】

①温泉と美容と健康に取り組んだプランの造成。②酒蔵と協働した日本酒のブランディングとPR。③各種サイト、エージェントと連携したPR活動の充実

【観光地域づくりのコンセプト】

「住みたくなる、二本松」
～山・歴史・文化・温泉・酒・エクストリームスポーツ
二本松ライフスタイルの創造～

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】

- ・日本酒ブランディング事業の推進
- ・岳温泉観光協会と協働したADATARAリトリートプロジェクト事業、十二支巡り事業の推進
- ・菊人形を活用したコンテンツ造成(将軍ディナー・殿様御膳開発)
- ・日本酒、玉羊羹など、地域名産品を使用した土産商品の企画開発

【受入環境整備】

- ・ガイドBOOKの多言語化、市内飲食店マップ作成、電動アシスト自転車レンタル事業

【情報発信・プロモーション】

- ・日本酒ブランディング事業ADATARAリトリートプロジェクト事業を関東・東北じゃらるるぶ東北、DMOホームページ、FB、インスタグラム等を活用して情報発信

【観光PR隊運営】

- ・本市の歴史に深く係りを持つ「二本松少年隊」をモチーフにしたPR隊を組織。広告媒体として県内外へのPR活動を実施

